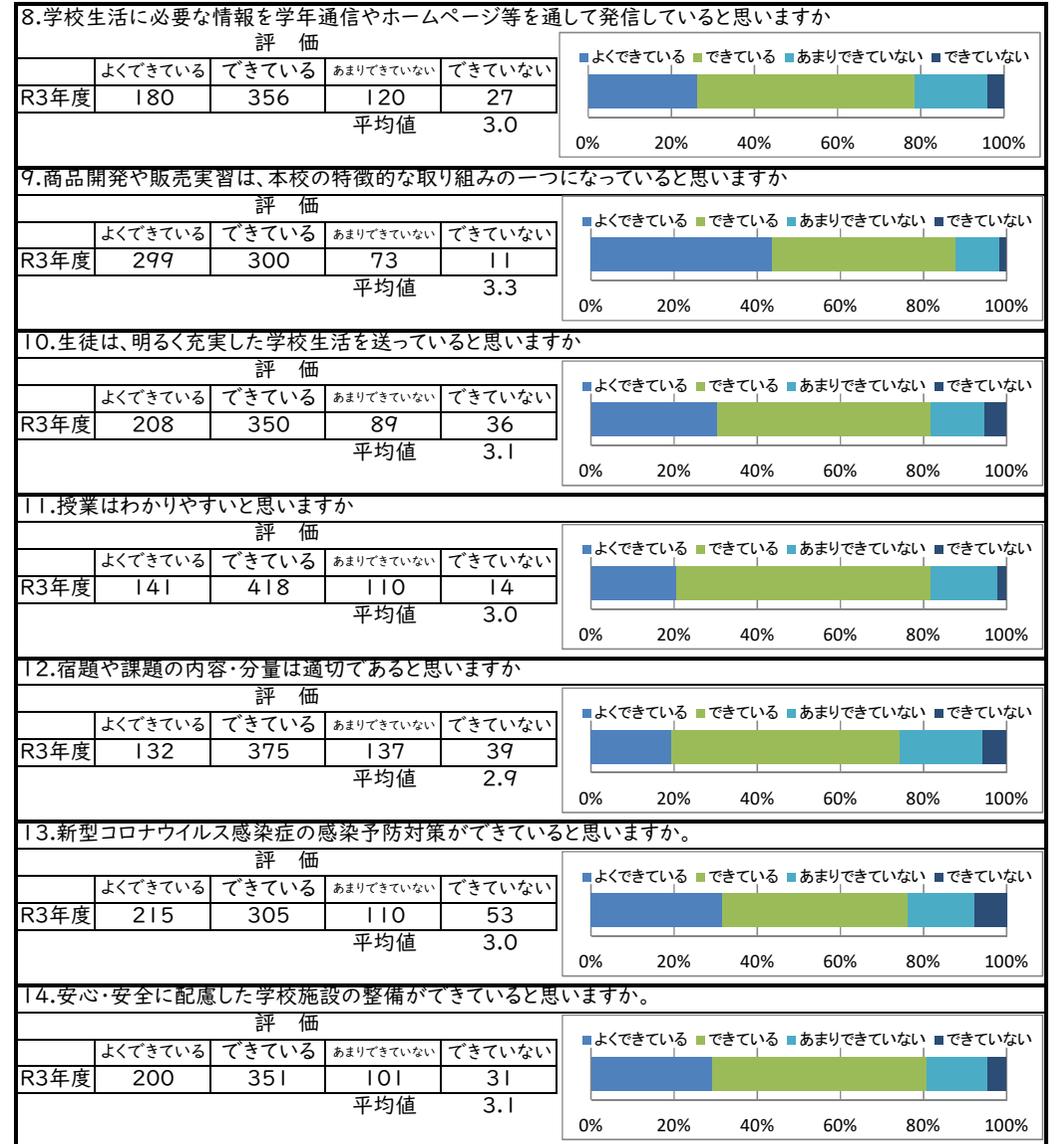
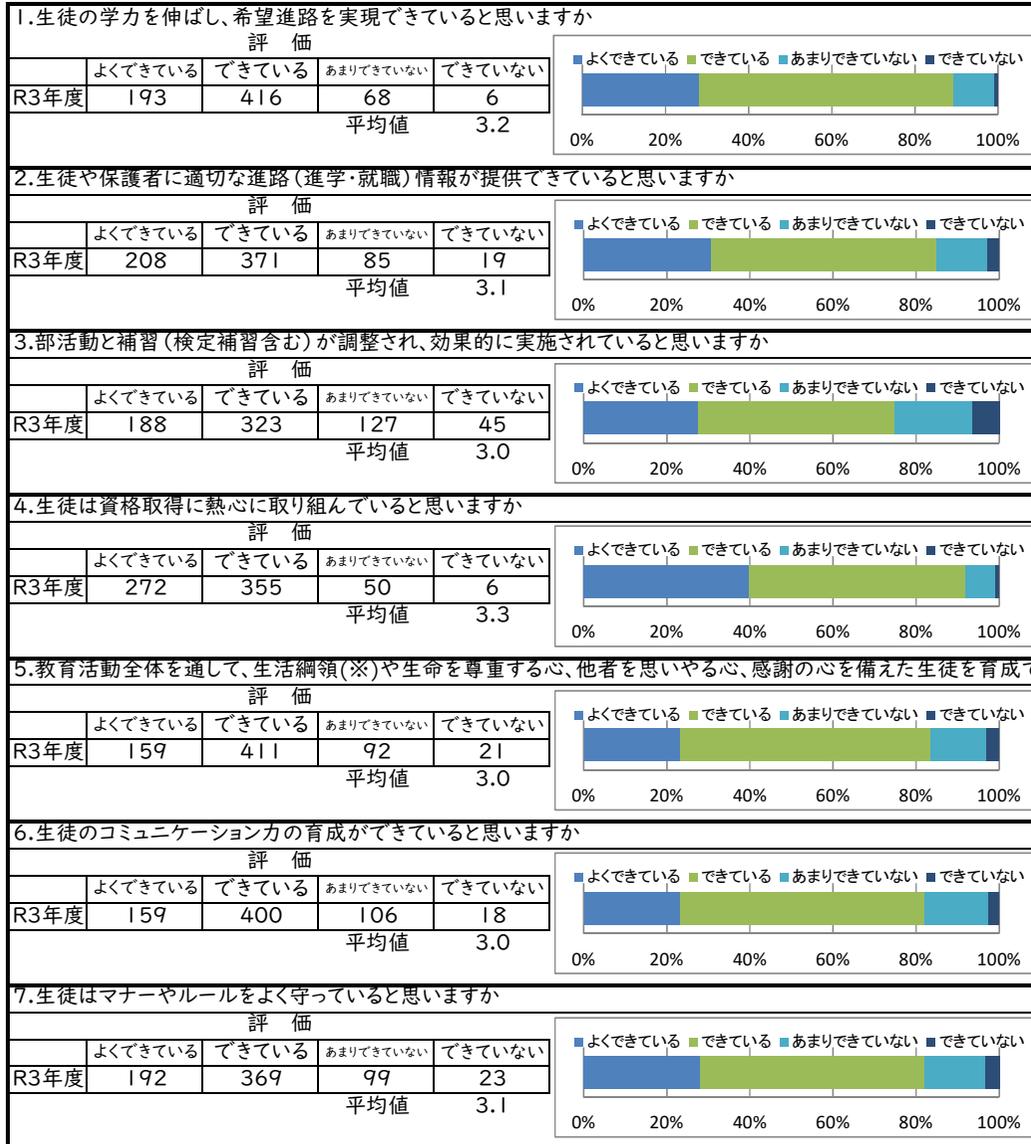
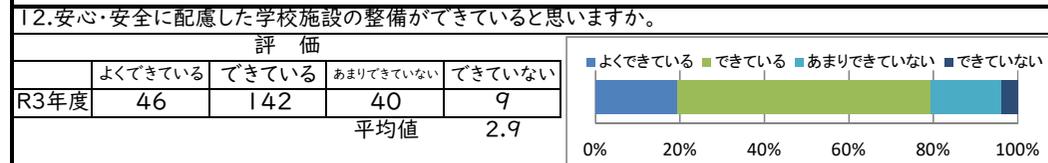
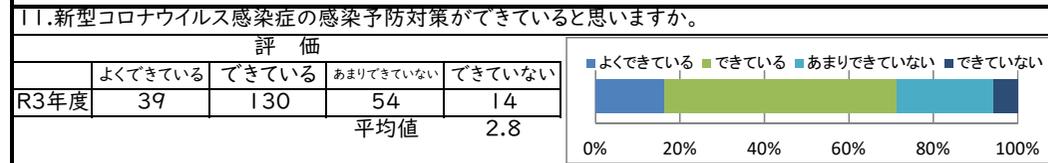
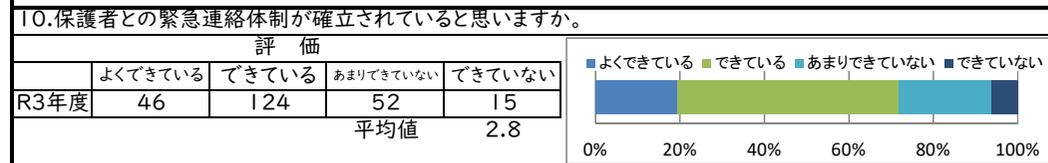
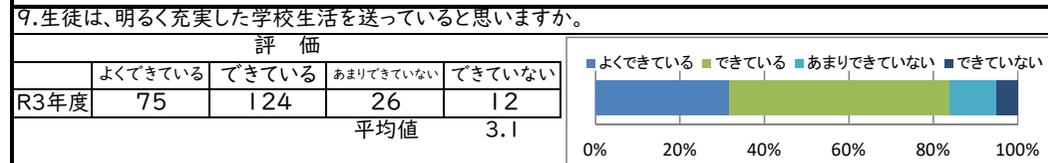
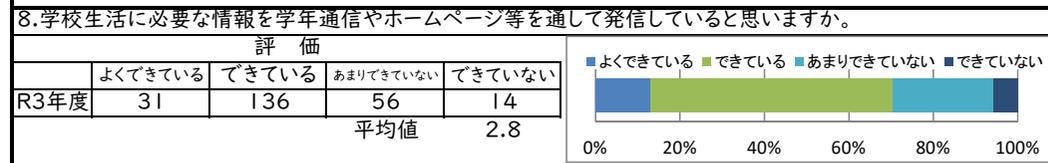
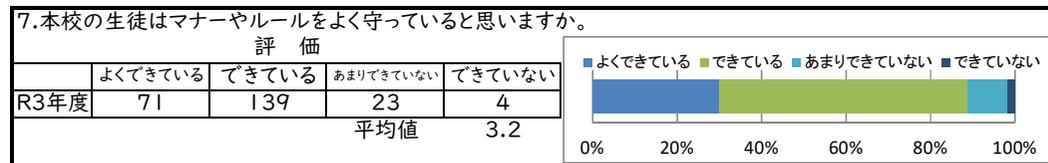
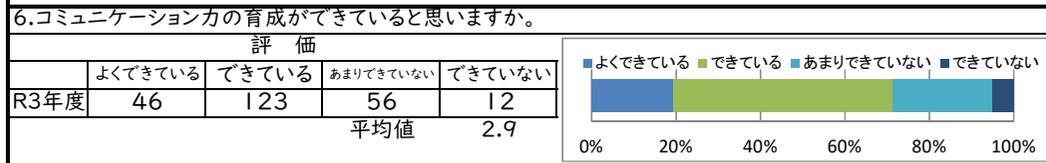
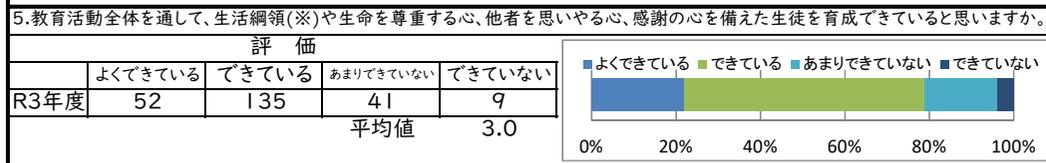
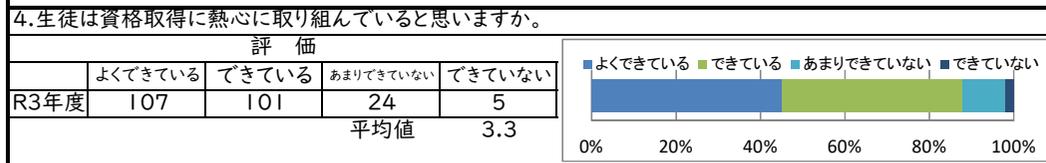
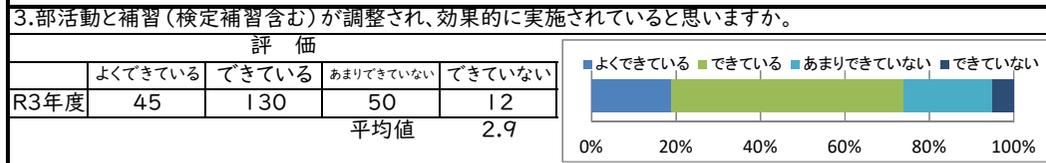
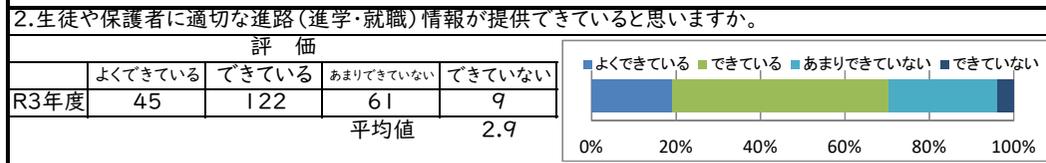
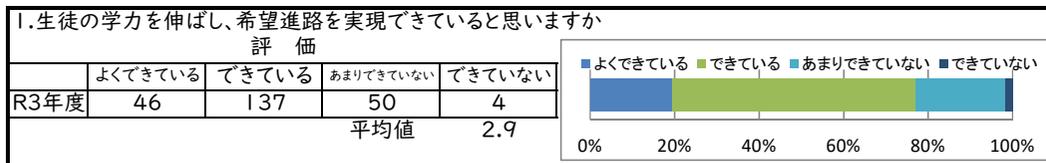


令和3年度 学校評価 生徒アンケート集計結果（生徒683名回答）



平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。
※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

令和3年度 学校評価 生徒アンケート集計結果（保護者237名回答）



平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。
 ※生活綱領「自分で考え自分で行う人となろう」「創意工夫に生きる人となろう」「共に喜び生きる人となろう」

令和3年度学校評価 教職員アンケート集計結果

[内部評価 対象:教職員]

[43名]

No	質問内容	<input type="checkbox"/> よくできている <input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない	平均値
1	生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。	5 33 5	3.0
2	生徒や保護者に適切な進路(進学・就職)情報が提供できていると思いますか。	6 33 4	3.0
3	部活動と補習(検定補習含む)が調整され、効果的に実施されていると思いますか。	2 22 17 22	2.6
4	生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。	11 22 9 1	3.0
5	教育活動全体を通して、生活綱領や生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。	4 26 12 1	2.8
6	考える力(課題解決力・自分で答えを導き出す力)の育成ができていると思いますか。	4 23 14 2	2.7
7	コミュニケーション力の育成ができていると思いますか。	5 27 9 2	2.8
8	本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。	9 32 2	3.2
9	学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。	6 20 15 2	2.7
10	商品開発や販売実習は、本校の特徴的な取り組みの一つになっていると思いますか。	5 31 7	3.0
11	明るく充実した学校生活を送っていると思いますか。	7 25 10	2.9
12	保護者や卒業生、地域、地元企業等と連携を図りながら、生徒が社会を感じることができる機会が十分設定されていると思いますか。	3 34 5 1	2.9
13	保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。	6 31 5 1	3.0
14	生徒のキャリア形成を支援するためのキャリア教育推進体制が構築されていると思いますか。	2 19 2	2.5
15	教員の教科指導力を向上させる体制が構築できていると思いますか。	21 21	3.5
16	新型コロナウイルス感染症の感染予防対策ができていると思いますか。	6 26	2.9
17	安心・安全に配慮した学校施設の整備ができていると思いますか。	4 32 7	2.9
18	あなたは、生徒の学力を伸ばし、進路実現に向けた指導ができていますか。	4 30 9	2.9
19	あなたは、進路情報を十分に理解し、生徒の進路指導に当たることができていますか。	4 28 11	2.8
20	あなたは、授業見学、公開授業の実施、生徒からの授業評価(アンケート等)などを通して、自身の授業力向上に努めていますか。	4 34 5	3.0
21	あなたは、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行なっていますか。	5 34 4	3.0
22	あなたは、生徒の考える力を引き出すことを意識した授業を行なっていますか。	6 31 6	3.0
23	あなたは、コミュニケーション能力の向上を図ることを意識した授業を行なっていますか。	10 28 5	3.1
24	あなたは、課題提出ができていない生徒などに対する指導を十分に行っていますか。	12 19 7 5	2.9
25	あなたは、部活動に熱心に関わっていますか。	5 30 8	2.9
26	あなたは、生徒指導力向上のための取組を行なうことができていますか。	7 29 7	3.0
27	あなたは、生活綱領(※)にある目指すべき生徒像を意識した教育を行なうことができていますか。	25 17	3.6
28	あなたは、生徒との挨拶を積極的に交わしていますか。	27 15	3.6
29	あなたは、個人情報の管理・漏洩には十分に気をつけていますか。	10 20 8 5	2.8
30	あなたは、ワークライフバランスを意識した生活ができていますか。	7 23 9 4	2.8

平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。

※ 生活綱領 ・「自分で考え自分で行う人となろう」 ・「創意工夫に生きる人となろう」 ・「共に喜び生きる人となろう」

令和3年度 学校評価報告

[内部評価] 対象:各専門部・学年

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
総務	・各部・各学年・各科との連携を密にし、学校前提の円滑な運営に努める	・新型コロナウイルス関連で各行事の中止や、規模を縮小しての実施を余儀なくされたが、校務運営委員会などを通じて、スムーズな運営を図った。 ・集会行事などは、動画配信システムの導入により、各HRにおいて一斉配信で実施することができた。	A	・年間行事予定からの行事変更が見られた。コロナ禍での行事の見直しなどを行う必要がある。 ・動画配信システムの有効活用。	・年間行事計画の計画段階で、各種行事について感染症防止策を取りつつ実施できる計画をたてる。また、行事の精選を図る。
	・広報活動の工夫と充実を図り、本校の特色(魅力)や情報を学校内外へ発信する。	・学校紹介や部活動紹介の動画作成や学校ホームページの更新など外部への情報発信回数が増やすことで、本校(商業高校)の特徴や魅力を伝えることができた。 ・各中学校へ学校紹介に行くことで、オープンハイスクールへの参加者が増えた。8月、11月の2回にわたりオープンハイスクールを実施し、530名を超える中学生、300名を超える保護者が参加した。	A	・オープンハイスクールの申込時期や、中学3年生の進路選択の情報提供として、学校案内パンフレットなどの広報資料を早い段階で作成・配布する必要がある。 ・ホームページに関しても、姫路商業の授業や部活動、取り組みなど学校の特色を幅広く情報を発信することで学校への理解を深めることにつながる。	・学校ホームページでは、各部署・学年との連携を図り、情報提供や情報発信など学校全体で取り組む必要がある。
	・LHRや講演会などを通じてLGBT等今日的な人権問題について触れ、その実態を学んで理解を深める。 ・人権にかかわる問題の解決に向けて自主的に行動できるよう人権意識を高める。	・人権LHRを通じて人権の問題について各種教材を用い考える機会を定期的を持つことができた。 ・定期的に人権推進委員会を開き、各部・学年と連携して人権問題への理解に努めることができた。 ・昨年度コロナのため、予定していた講演会や職員研修会を開催することができなかったが、今年度は職員研修もでき、動画による講演会もできて生徒もしっかり動画を見て人権の課題に取り組んでいた。	B	・コロナ禍において一か所に集まるとの講演は難しいので、本校も配信システムが確立されたが安定性に欠けるため講師の方に来ていただいたの配信は難しいかもしれないため、zoomやmeetを使うか動画を全教室で利用するか悩むところである。	・各教室のプロジェクター・情報機器を生かすなど、リモートでの講演会や研修会の持ち方をシステム管理部の先生と連携して検討する。 ・今日的な課題に向けてアンケート項目からの見直しを図り結果を全体で共有できるようにする。
	・図書に対する希望や意見を図書委員が集約するなど、生徒が自発的に行動できるよう指導し、積極的に図書室を活用できるように取り組む。 ・Surfaceや新聞を利用した図書室の活発な利用を促す。	・図書当番の仕事を通じて書籍の購入希望・管理や帯出業務などに取り組ませることができた。 ・定期的に図書委員会を開催し、図書の選定、『図書だより』の発行など自主的に動くよう指導することができた。 ・入試準備や授業に新聞・書籍・Surfaceの利用を勧めることができた。 ・調べ学習やプレゼンテーションの学習に図書室設備を生かす機会を増やすことができた。	B	・図書委員については、図書室の利用促進に向けた積極的な姿勢を指導することが必要である。 ・書籍の環境整備、整理・分類はまだまだである(今後も相当に必要である)。 ・生徒の自主的な学習の機会が進められていない。生徒自身が学習の中で疑問をもち、自ら調べ、考えるよう指導することが必要であり、まだまだ「教員の指導待ち」状態である。	・図書委員会をもっと活用する。図書室の利用促進や『図書だより』紙面構成について自主的に考えさせ、自発的な行動機会を増やす。 ・Surfaceについては、より利便性を高めるため協力を依頼し、連携をする。 ・昼休みや放課後の生徒開放を利用して書籍を大切にすることを心がける。 ・授業での活用機会をさらに増やす。
教務	・自ら学び、自ら考える力を育成するため、各教科内研修(公開授業)を推進し、授業改善を勧める。研究授業を行い授業改善・自己研鑽に努める。 ・能力・適性・興味・関心、進路に応じた教育課程の研究に努める。	・公開・研究授業を行い、教科内研修を推進した。 ・ICTを活用し、1年生はタブレットを利用した授業などの展開が行われた。	B	・すべての教科で公開・研究授業を実施できなかった。 ・実技科目(芸術)などで実技の課題をタブレットで撮影し提出させるなどの工夫も見られたがすべての教科ではないのが課題として残った。	・年度や学期など授業評価の実施時期を示し、各教科において評価項目の策定を依頼し教務主導で導入したい。
	・令和4年入学生の新しい学習指導要領にそったカリキュラムの編成。 ・3観点による評価の導入に向けた研修を行う。 ・姫商生に付けさせたい資質・能力を教科ごとに考え、教科横断的な教育活動ができるようにする。 ・特別活動における観点別評価を設定する。 ・総合的な探究の時間について計画を立てる	・評価カリキュラム委員会を通して新教育課程を考えることができた。 ・3観点別の評価による研修を行い、職員全体の共通認識を持たせることができた。	A	・来年度各教科で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3つの観点からの評価になっているか検証する必要がある。	・総合的な探究の時間の導入にあたり、本校のキャリア教育を意識しキャリアセンターや教務部が中心になり全職員で取り組む必要がある。
	・県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクタなどのICTを活用した授業やBYODによる授業など、教員の活用能力の向上と授業の中での積極的な活用を推進する。	・デジタル教科書やスタディアアプリなどの活用を行った。 その他、デジタル教材の開発などDXが進んだ。	A	・情報化社会に主体的に対応できる情報教育を推進し、情報技術や情報を適切に活用する能力及び情報モラルを育成する意識を全職員が持つようにしたい。 ・また、知的財産に対する権利の意識を向上する指導に取り組む必要もある。	・生徒指導部などの情報モラル教育も情報教育の一環として位置づけ今後の対応を学校全体の課題として考えていく。 ・デジタル教科書など活用とすべての教科でタブレットコンピュータの活用を考えてもらい、授業の利用単元を考えてもらう。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
生徒指導	・自転車通学生が大部分である現状を踏まえ、交通マナーの向上と交通安全の高揚を図る。	・年間3回の交通安全運動(下校時)を実施。 ・自転車交通安全指導。 ・通学時の交通マナー指導(全校生)。	B	・おおむね交通ルールを遵守する姿勢は見られたが、細かい部分までは徹底できていない。	・日常から呼びかけを継続するとともに正しい交通マナーを理解させる。
	・通学カバンの見直し。	・必要性に応じて各自カバンを選択し活用できている。	B	・カバンに不要な装飾品を付けている。 ・自転車利用時のカバンの持ち方が悪い。	・指定カバン廃止の理由を理解させ、本来の活用目的を自覚させる。
	・インターネットおよびSNSに関するトラブルの減少を図る。	・インターネットおよびSNS被害防止講演会を実施(1年生対象)	B	・スマートフォンを利用した生徒トラブルが発生した。	・姫路南サポートセンターと連携を図り、全校生を対象にSNS関連の被害防止教室を行う。
生徒支援	・教育活動全体を通して心身の健康の保持・増進に必要な自律的能力を培い、生涯にわたって主体的に健康な生活を保持するための基礎を培う。 ・新型コロナウイルス感染症対策	・健康診断の事前・事後措置の機会を活用し集団 ・個別に自らの健康に関心を持つ指導を行った。 ・感染症対策のため検診実施方法を見直し三密を回避する方法で実施した。 ・保健室の機能を十分にいかしながら、保護者や学校医と連携を密にし、心身の健康問題の早期発見や早期治療、疾病の予防に努めた。 ・学校全体で感染症予防の教育や偏見差別について考える指導を実施した。また全職員で消毒や感染予防の環境整備を実施した。 ・感染予防の行動がとれる生徒が多くなり、感染拡大期も家庭内感染が主で、校内感染が起きることはなかった。	A	・健康診断結果を受けて、生徒自らが健康意識を持ち、健康の保持増進につながる行動がとれない生徒がある。 ・新型コロナウイルス感染症を予防するため時間や実施方法を見直して実施したが三密を避け実施するため時間的な余裕がない。 ・生徒が病院受診する時間の確保が難しい。 ・がん教育の準備が遅れている。 ・目に見えない感染というものを理解することが難しいため行動変容がおこりにくい。生徒職員ともにその行動の必要性の理解を促すことに苦労した。終わりのない状況に疲れや慣れが生まれて危機意識の低下がみられる。 ・感染拡大期の職員負担が大きかった。自覚ある行動がとれない生徒が一定数あった。	・健康診断後の事後指導を個別に丁寧に進める。 ・健康教室を増やし、生徒が健康に関心を持つ機会を増やす。 ・学校として生徒の日常生活の中に病院を受診し定期健診や検査、治療を受けるための日を確保する。 ・がん教育研修会等に参加し実施できるよう準備する。 ・感染症対策に疲れや慣れが出てくる頃が危険と考える。役割分担見直しと職員の負担軽減を考えていく。タイムリーな情報発信と対策の重要性を継続して伝えていく。 ・感染拡大期には保護者と協力し健康観察と行動制限を行い、感染予防のための取組に理解を求める。
	・保護者や地域社会との連携を図りながら多様性の社会の中で、生徒にその一員としての共生の心を育成し、生命の大切さを体得する。	・保護者・専門機関と連携し個別に支援を必要とする生徒への支援を組織的に行った。 ・キャンパスカウンセラーを3人体制にしアサーションやソーシャルスキルトレーニングを実施し生徒の進路実現のサポートを行った。	B	・支援が必要な生徒の把握と情報共有を円滑に実施する必要がある。 ・支援が必要な生徒の中学校からの情報提供がない場合があり、対応が遅れが出る場合がある。 ・支援ファイルの定期的な更新ができていない場合がある。	・年度初めに支援が必要な生徒の把握、ファイルの作成更新、情報の共有までのスケジュールを作成し確認する。情報が更新されるごとに共有を行えるよう体制を整える。 ・可能な限り入学時に把握する。入学後把握した場合は必要に応じ保護者・中学校・関係機関と連携し生徒が学校生活で困難な状況にならないよう努める。 ・キャンパスカウンセリングをさらに生徒に開かれた機会にする。
キャリアセンター	・一人ひとりのキャリア形成と自己実現におけ、組織的・継続的な進路支援体制の充実を図る。また、各学年や関係機関と連携を深め、適切なサポートを計画的に実施する。	・3学年との毎日の打合せや適宜学年会議において、連携を図った。また、各学年実施の進路行事では学年進路担当者と連携を図った。	B	・多様な進路支援が必要となるため、3年生への支援が業務の中心となり、他学年との連携が手薄になった。 ・時間割や業務の都合等でキャリアセンターと学年進路担当との打ち合わせの時間が持てなかった。	・入学時から三年間を見据えた計画を立て、学年の動き、情報をより把握するためには、放課後等の時間を利用しての連絡会の時間を持つことが望ましい。
	・主体的な進路選択能力の育成を図るために、様々な体験活動を通じて望ましい職業観や勤労観の育成と進路意識の向上を図る。	・ひょうごスーパーハイスクール事業による外部講師の活用 ・就職面では、キャリアセンターとの面談、卒業生を囲む会・応募前職場見学・ビジネスマナー講座・インターンシップ・職業講話・公務員学習会を実施した。また、生徒・保護者向けの説明会も実施した。 ・進学面では、キャリアセンターとの面談、卒業生を囲む会、志望理由書講座、学年またはキャリアセンターが提案し進めたものもあった。 ・模試に関しては実力診断テストを取り入れ、具体的な学校名や職種に対する適性を生徒・教師ともに共有できるようにした。	B	・3年生の進路決定時に、社会が抱える課題に対して、これまでの学びを通して、自分自身がどういった立場から貢献できるかを見通せない生徒が多数いる。	・卒業後を見据えた3年間のキャリア活動における、ねらいや目標を明確にし、周知していく。 ・これまでの取り組みは継続しつつ、来年度から実施する「総合的な探究の時間」と連動して、将来のビジョンを描けるような計画が必要である。
	・様々な活動を通して、幅広い視点を身につけるとともに、その身につけた実績を、進路に直結できるよう図る。	・校外研修や講演会、ボランティア活動など様々な角度から地域について学ぶ機会を持ち、課題研究につながる素地を育成する活動ができた。 ・実践した活動についてはホームページなどを通じて紹介し、生徒のキャリア形成の状況を共有することができた。	B	・各部・学年、各教科が単独で活動していることが多く、生徒に対して実施しているキャリア活動の把握が難しい。 ・学期ごとに振り返りと活動報告書の記入をさせる予定であったが、活用が進んでいない。	・生徒のキャリア活動の根幹をにない、各部・学年、各教科に広げていくようにする。 ・キャリアについて考える学年行事を設け、活動や検定の振り返り、進路について考える機会を設ける。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
システム管理	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインネットワークサービスである、google Classroomやoffice365のアカウントの管理やサービスの方針研修を行う。 ・BYOD授業の補助などを積極的に行う。 ・情報セキュリティ実施手順の策定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの教科でタブレットと単焦点プロジェクタを用いた授業が展開できた。BYODなどの授業の試みから実施をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の積極的活用が一部の職員になりがちで、活用の利便性と生徒の分かりやすさを今後も広めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にICT機器の研修会を行う。個別指導なども行う ・chromebookへ導入する新しいアプリについても積極的に検討を行う。 ・授業でどのようにICT機器を活用するのかを検討するプロジェクトチームを立ち上げ、積極的に提案していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・県立学校学びのイノベーション推進事業により校内LANが整備されたことに伴い、タブレットPCや単焦点プロジェクタなど管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内LANについては、年度末に「学びのイノベーション」の追加希望調査があり、校内のほとんどの場所で整備することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの接続状況が良くなく、NTTに相談し、12月より劇的に良くなるようになった。 ・体育館の無線LANが導入されておらず、現状のままでは体育の時間にchromebookを活用することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の無線LANの整備を推進する。
商業	<ul style="list-style-type: none"> ・専門教育の深化を図るとともにスペシャリストを育成するために、個々のニーズや時代の流れに合った商業の教育課程や指導方法を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の見直し(選択科目の実施内容の変更) ・課題研究の実施内容・方法の変更 文化祭にてポスターセッションによる中間発表を実施 ・特別非常勤講師等の活用 ひょうごスーパーハイスクール事業を活用し様々な職業人による講演会を実施 ・受験検定の精選(1年次での日商簿記3級受験により2年次日商簿記検定2級合格者の増加) 3年生の日商簿記2級合格者が65名(昨年度7名) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の実施方法を変更したが、商業科目内で課題研究につながる取り組み(生徒に考えさせ、提案、発表、コンテストへの応募への推奨) ・ひょうごスーパーハイスクールが今年度で終了となるため、講師による講演会の確保 ・日商簿記3・2級の合格者およびITパスポート等の国家資格合格者の増加 ITパスポート受験料が¥7,500と来年度から値上がりするため検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次より課題研究に向けた体系的な授業展開の実施 ・資格取得だけではなく、ビジネス事例を用いたグループ学習や発表の機会を増やす。また、ビジネスゲームや各種コンテストへの応募を通じ、知識を活用しアイデアを生み出すことで課題研究につなげる授業展開を行う。 ・市役所や姫路青年商工会議所と連携を取り、講師確保に務める ・高崎商科大学との連携により日商簿記講座の動画視聴による学びが可能となったため、反転学習や復習学習に活用することで、自宅学習の習慣を付ける。 ・アルゴリズムの考え方や仕組み理解を中心とした授業展開を実施し考え抜く力を身に付けることにより、合格率上昇につなげる指導を展開する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル社会に対応したスマートスクール構想の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に整備を終える予定。すでに整備を終えている教室については機器の活用を実施。 ・動画配信システムにより様々な行事や講演会を体育館に集めることなく実施が可能となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教室のプロジェクターでは後方の生徒が見えにくい場合がある。 ・教室の雰囲気が発信側に分かりにくい点がある。 ・次年度の活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室で担当する先生方に配信内容を事前に十分把握してもらうことが必要。 ・活用方法を今年度中に検討する。
情報科学科	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを活用技術の向上と社会に触れる機会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、実施してきた工場見学がコロナ禍の影響で中止となり、実社会の最新技術などに触れる機会を作れなかった。 ・2、3年次生徒へは経営者の方に来て講演していただく機会を得た。また、大学校の先生に最新のAIについての講義をしていただくことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も外部への見学は見通せない状況の中、企業の方などを講師としてお迎えして、実社会に触れる機会を作っていくなど考えていきたい。 ・オンライン配信などを活用して実社会とつながる形での工場見学などを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の企業や研究機関との連携について考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・工業科目(情報技術)の理解と国家資格取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の基礎から応用技術まで、工業科目中で段階的に展開して実施した。 ・4月と10月の国家資格試験が延期となる中、基本情報技術者試験に4名、情報セキュリティマネジメント試験に2名合格した。 3Dプリンター2台、レーザー加工機1台が導入された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術やプログラミング技術を活用したIOTなど生徒が興味関心が持てる授業となるように工夫を凝らす必要がある。 ・新しい機器の実習での利用や教材研究に役立てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分で目標達成できる実習教材など考える。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
1 学 年	・生活習慣・学習習慣の確立と主体的な進路選択に向けての取り組み	・遅刻指導など根気強く指導し生活習慣と自己管理意識の育成に努めた。 ・chromebookを活用して、宿題を配信し、家庭学習の習慣を身に付けさせた。 ・外部講師による講演会を聞く機会が多くあり、その事前学習を行うことにより、将来の職業に対し、イメージさせることができた。	B	・アプリ「エナジード」を導入したが、ネットワーク不良のため、これまで十分に活用ができていない。 ・主体的な進路選択を促すため、学年集会等で卒業後の進路実現に向けた具体的な取り組みについて情報発信をしてきたが、全員にはそれが届いていない。	・ネットワーク不良は解消したので、今後「エナジード」を活用して生徒へ探求的な物事の捉え方、積極的な取り組み方を身に付けさせたい。 ・ボランティア活動や地域のフォーラム等、学校外の活動にも参加させ、自身の興味関心を広げ、幅広い年齢の人と触れ合うことで社会性を育み、自分の言葉で語れる体験を増やしていきたい。
	・自己理解とコミュニケーションを深めるための取り組み	・校外学習、体育大会、文化祭と限られた行事の中で、お互いの個性を認め合い、生活面、学習面ともに互いに切磋琢磨する様子が見えた。 ・挨拶をはじめとする基本的な生活習慣が確立し、集団生活を通して自分の役割を果たす様子が見えた。	B	・行事が限定的であったため、行事の中でクラスが一丸となって、取り組むことや、友人とのコミュニケーションスキルに課題がある。 ・こちらの提案に対して消極的な態度の生徒の指導方法を工夫する必要がある	・体験活動を通じて、自分の長所や短所に気づかせ、自ら改善しようとする態度を育成する。
2 学 年	・基本的な生活習慣を確立させ、人間的なふれあいを通して、人としての在り方生き方を考えさせ、自主性・主体性を育成する。	・挨拶をはじめとする基本的な生活習慣が確立し、集団生活を通して自分の役割を果たす様子が見えた。	B	・様々な環境や集団を通じて、チームワークとは何かを考えさせる。また、リーダーシップを備えた生徒を育てる。	・様々な体験活動を通じて、自分の長所や短所に気づかせ、自ら改善しようとする態度を育成する。
	・生徒一人一人の個性の伸長に努め、自己の能力・適性、興味・関心にあった進路を主体的に選択し決定できる能力を育成する。	・様々な学校生活の中で、お互いの個性を認め合う生徒が増えた。また、進路に向けて資格取得や学習面でも切磋琢磨する様子が見えた。	B	・何事にも見通しをもって計画を立て、評価・改善を加える課題対応能力を向上させる。	・学ぶ・働くことへの意義や役割を理解させ、将来を設計する力を育成する。
3 学 年	・基本的な知識・技能と社会のルールを確実に身につけさせる。	・計画的に学習に取り組み、学力の向上と同時に各種コンテストの応募や資格取得において好成績を残した。 ・外部講師の方をはじめとする講義や映像資料などで社会のルールを知り社会人としての意識を持つことができた。	B	・コロナ禍で予定していた活動ができず、思うような結果を出せなかった生徒に対する適切なアドバイスが不十分であった。 ・校内だけでなく校外においても、交通ルールをはじめコロナ禍における社会のマナーを守るという意識を高めるための働きかけに工夫が必要である。	・進路選択におけた多様な取り組み(活動)を知るために外部の研修にも積極的に参加させる。 ・科学的な知識や社会の状況に意識を向けさせるために、新聞やニュースを読む習慣をつけさせる。
	・自ら学び自ら考える態度を身につけさせ、社会人として通用する人材へと導く。	・自身の興味関心に沿った知識・技能を深め高度な資格検定の取得に挑戦し結果を残した。	B	・次年度から成人(社会人)として自立するという意識を持たせるための活動が不十分であった。	・外部講師等の社会人の講演や活動を知るために、講演会や外部の研修に参加させ、その後継続的に活動させることで知識や意識の定着につなげる。
	・主体的な進路選択ができるように進路指導・援助を行うと同時に家庭や地域社会との連携を密にする。	・自分自身の長所短所を知ったうえで将来像を描きその実現に向けて努力し進路を開拓した。 ・家族を含め、自身の周囲の人たちと自分との関係を客観的にとらえ自身の役割を自覚する姿が見られた。	B	・性格や家庭環境により個人差が見られるので指導者が適切に寄り添い助言を与えることが求められる。	・コンテストやボランティアなど外部での活躍を共有できるよう、ホームルームや学年集会などで周知する。 ・担任等との面談を通して意思疎通を密にする。